

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2374000384
法人名	医療法人 静巖堂医院
事業所名	グループホーム 好日庵
訪問調査日	平成20年2月19日
評価確定日	平成20年3月24日
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社ヤトウ

項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法
[取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。
[取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年3月25日

【評価実施概要】

事業所番号	2374000384		
法人名	医療法人 静巖堂医院		
事業所名	グループホーム 好日庵		
所在地	新城市副川字大貝津13 (電話) 0536-35-6100		
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7A		
訪問調査日	平成20年2月19日	評価確定日	平成20年3月24日

【情報提供票より】(平成20年2月3日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	18年2月1日
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計 9 人
職員数	10 人	常勤 8人, 非常勤 2人, 常勤換算 6.5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	3階建ての 3階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	23,500 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(80,000 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,200 円	

(4) 利用者の概要(平成20年2月3日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	5名	要介護2	3名		
要介護3	1名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 83.4歳	最低	73歳	最高	100歳
協力医療機関名	医療法人 静巖堂医院				

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

母体が医療機関であり、建物の1階には病院、デイケアセンター、訪問リハビリ、2階は介護療養型医療施設、3階が居宅介護支援、グループホーム「好日庵」である。理念に基づき入居者一人ひとりがその人らしい生活を過ごせるよう、生活に制限や制約はせず、職員はよきパートナーとしてそばで寄り添い、入居者に職員が合わせている。人として喜怒哀楽を自由に出してもらえよう話しをよく聞き、入居者に応じて声かけや対応を工夫し、一日一日を共に過ごしている。法人が病院であり、医師を交えて家族、職員で話し合う機会もあり、本人や家族の安心につながっている。職員間のコミュニケーションもよく家族からも信頼を得ている。家族同士の関係もできており、家族と職員が共に協力しながら入居者を支えている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>介護計画作成に職員を参加させチームアプローチとして、職員の意見、気づきを反映した計画作りに取り組んでいる。また、1週間に1回入居者を交えたグループワークを行なうことで、良好なコミュニケーションが得られ、入居者の意向、思いの把握が容易となり、より良いサービスの向上に取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員各自が自己評価を行うことによって、職員自身の介護サービスに対するスキルアップと目的意識の啓発につながり、職員間で機会ある毎に話し合いをするようになった。また、日々のケアにさまざまな課題を見逃さない、気づきをする取り組みを積極的に行った。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>3カ月毎に開催される運営推進会議は、多彩なメンバー構成になっており、ホームの運営方針や行事予定、外部評価の結果などの報告の他、ホームの掲げる理念とその運営についての取り組みなどに理解と協力を得ている。また、メンバーからは、客観的な意見やアドバイスなどをいただいております、運営に反映している。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族会を年3回実施しており、ホームから運営方針や行事予定などの説明をして、家族からは要望や思いを聞く機会を設けている。夏と冬には家族が職員と一緒に参加し、模擬店形式の昼食会を行い、家族間の交流を深める取り組みをしている。家族がホームを訪問する機会が増え、この時に要望や意見、アイデアが出されるようになった。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入しており、少しでも地域に密着した介護サービスができるよう、地域の行事には積極的に参加している。また、ホームの運営や実情、特に認知症に対する取り組みについて理解と協力を得るため、啓発活動としてホーム便りを発行して配布している。これによって少しずつ理解が得られてきた。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者はバリデーションについての研修を受け、入居者に対する取り組みと共に、創立者の思いでもある「安心して過ごせる、その人らしい生活の継続」を実践するための良きパートナーであることを理念としている。理念をホームの目に付きやすい所に掲示し、職員全員で共有している。		地域との交流を積極的に取り組んできたことから、連携や協力が得られる関係ができてきている。今後は、地域密着型サービスとして、理念の内容にも地域との関わりについて盛り込み、反映させていくことを期待したい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の採用時には必ず理念とその意義を説明し、月1回のミーティングでは、職員全員で確認し徹底、共有している。「職員は入居者のサポーターであること」を大切に、「入居者が職員に合わせを無くす」を目標にして、朝夕の申し送りや、ミーティングの時など機会あるごとに話し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域の行事や小学校の行事などに入居者が参加している。こうした活動から小学生の訪問や手紙の交換などの交流が生まれている。また、ボランティアの訪問もあり、入居者が楽しみにしている。バス停の草取りや掃除を月1回行い、近隣の住民から声かけがあり、話しをする機会となっている。広報として、ホーム便りを回覧板に入れたり、認知症についての啓発に努めている。	○	開所2年目の取り組みとして、地域との交流に積極的に活動してきた。3年目の目標として地域の中のグループホームの役割や専門性を活かした取り組みを考えており、地域と支え、支えられる関係のさらなる発展が期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の意義や目的を職員に説明して、職員各自が自己評価を行い、情報の共有化を図ると共に、サービスの質の確保と向上に取り組んでいる。また、前回の外部評価での課題については、改善計画を立て、チームアプローチとして実施し改善されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議のメンバーは、地域包括支援センター職員、民生委員、家族、地域住民の代表から成り、3カ月毎に開催している。この会議を活用して外部評価の結果を公表したり、ホームの活動状況、行事予定を説明し、理解と協力を得てより良いホームの運営に反映させている。また、これによって認知症への理解も少しずつ得られてきている。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市担当課へは、年3回の家族会の内容、運営推進会議の議事録を送り、ホームの活動状況が市の担当者に理解されるよう取り組んでいる。また、民生委員の任期交代時に市からの要請もあり、ホーム見学など積極的に受け入れている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>ホーム便りを3カ月に1回テーマを決めて作成し、家族に送付している。内容には認知症について紙面の多くを割いている。家族の他に、自治会に回覧したり、病院外来の窓口に置かせてもらっている。入居者の写真を掲載する場合は家族から同意をいただいている。金銭出納報告は毎月送り、2カ月毎に入居者のホームでの様子やエピソードなどを職員が作成し送付している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ホームは家族との関わりを重視し、介護記録を家族に見てもらおうよう1カ月分を送付した。この取り組みに職員は、入居者の小さな変化も見逃すことなく、記録するようになった。家族は入居者のホーム内での生活が把握でき、家族とホームの距離が縮まり、意見や要望などを訪問時に気軽に出されるようになった。また、家族間の親しみがでて、一体感が強まった。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>開所して3年目と新しく、現在のところ離職者は無く、法人内部の異動も行われていない。入居者の担当は複数制として、内部異動は2人同時に行うことはなく、異動のダメージを防ぐような取り組みになっている。今後、内部異動を行う場合、職員と入居者の状態に考慮しながら実施したいと考えている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者、職員がバリデーション研修に参加し、受講していない職員には受講経験者がミーティングや勉強会において、テーマを決めて指導している。また、愛知県グループホーム連絡協議会主催の研修会などには、職員が順番に参加できるようしたり、職員の段階に応じて研修の受講を勧めている。外部、内部の研修が充実しており、各種資格取得に向け情報を収集し積極的に奨励し、さらなるレベルアップに努めている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会に参加することにより、他のグループホームの話を聞く機会はある。3月に市内のグループホームと入居者数名を交えて、相互に訪問する計画がある。継続的な交流と範囲の拡大を図り、情報の共有化やサービスの質の向上に取り組んでいる。	○	研修会とは違う、他のグループホームへの見学や相互訪問など同業者との交流を強化することは、職員が自分達が行っているケアの意味を再確認することにもつながることから、継続した取り組みに期待したい。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居に先立つ体験入居は希望があれば対応可能である。過去に家族と一緒に泊まったことはあるが、現在は法人内のデイケアセンターやショートステイ利用者の入居がほとんどであり、施設や職員にも馴染みがあることから、入居から短期間で落ち着きが見られている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の性格や認知症の度合いなど、その人の状態により職員のペースではなく、入居者のペースに合わせ、日常生活を共に過ごすよう心がけている。また、入居者から方言や昔の話など職員の知らないことを教えてもらったり、話を聞いたりして、入居者が生き生きと話せる機会づくりに配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者の状態を職員全員が把握するように、センター方式を利用し生活の記録、日常的な問題の発生など気づいたことを記入して、常に新しい情報を共有している。また、入居者の会話のレベルに差があり、職員としては会話の不得意な入居者の話しを極力聞くよう配慮している。入居者のボディランゲージにも注意し、何を表現しているのかを汲み取り記録し、職員全員で共有するよう取り組んでいる。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人の立場に立った暮らしやすさを反映した介護計画を作成している。毎月行うミーティングと共に、日々の申し送りで入居者の状態を把握し、その情報を共有している。サービス担当者会議には、ホームのかかりつけ医師や家族も参加して話し合いを行い、気づきや意見、意向を介護計画に反映している。個人の介護記録には、介護計画が記入されており、職員が計画に沿ったケアを行えるよう工夫されている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>ミーティングや申し送りで入居者の状態を細かく報告し合い、少しの変化も見逃さないよう努めている。必要な場合には24時間シートを利用して、介護計画の目標達成状況をチェックし、3カ月毎の介護計画の見直しに反映させている。入居者の日々の変化に対しては、臨機応変な対応をして、実情に即した計画の変更に取り組んでいる。</p>		
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>医療連携体制加算を受けている。共用型デイサービスやショートステイについては、現在情報を収集している段階である。病院が併設しており、何時でも医師の判断を仰げる体制が整っている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居前のかかりつけ医に受診することは可能であり、入居者時に希望をとっているが、家族の希望で法人である病院をかかりつけ医に全員がしている。2週間に1回受診しており、眼科や歯科などの他科への受診は家族が付き添いをしている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>看取りに関するマニュアル、終末期における看取り介護マニュアルなどが整備されている。家族にも分かりやすいよう看取りケアを説明したパンフレットを用意している。家族や本人の意向を確認しており、随時状況に応じて話し合いを進めていく方針である。看取りの経験はないが、職員は勉強会を通して学び、看取りに対する意識は高い。本人や家族の希望にホームができることを最大限支援していきたいと考えている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個人情報対応マニュアルや就業規則で規制している。職員は個人情報保護法について理解している。写真が掲載されているホーム便りを外部に出す時には、家族から同意書をとっている。また、外部者にも守秘義務について同意書をとっている。記録類は事務所で保管している。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>その人の状態や生活に合わせることを基本とし、入居者が職員のペースに合わすことがないように声かけに気をつけている。朝は「ご飯ですよ」と声をかけ促すことはしない。家事や外出、レクリエーションなどは、押し付けではなく本人のやる気や思いを引き出せるよう職員は支援している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員で話し合い、休憩の確保やストレスの緩和を意図として昼食は入居者と一緒に摂っていない。朝と夕食は共に摂り、昼食時は見守りをしている。食事の献立づくりから準備、片付けに至るまで入居者と職員と一緒にやっている。入居者が行いたい、行おうと思った時にできるよう包丁やまな板も数個用意している。	○	入居者と職員が同じ食卓を囲み、一緒に味わいながら入居者にとって食事が楽しいものになるよう、昼食時について工夫できる方法など、検討されることを期待したい。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴を楽しみにしている入居者が多く、本人の希望に合わせてゆっくり入浴してもらっている。入居者と個別に接するコミュニケーションの時間として大切にしている。季節に応じ、菖蒲湯やゆず湯、温泉から湯を運んで入るなど入居者の楽しみになっている。入居者の希望に応じ職員の勤務形態を変更するなど柔軟な対応をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の趣味や経験を生活の中で活かしてもらえるよう、できること、できないことを見極め、職員は声かけのタイミングや話し方、入居者の性格も考慮しながら支援している。夏祭りではテラスで流しそうめんをしたり、クリスマス会ではたこ焼きや寿司を家族と一緒に協力して作り、とても好評だった。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩コースが多種であり、天気の良い日には散歩に出かけている。スーパーへ週1回食材の買物に出かけており、職員と入居者がマンツーマンで出かけている。また、喫茶店に出かけたり、希望に応じて個人の買物も支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホーム玄関に施錠はしていない。建物の3階がグループホームであり、エレベーターや階段のドアを利用する際には、電子錠の操作が必要である。積極的に外出の機会を設けており、テラスで椅子に座り外気浴をすることもできる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月ホーム独自で避難訓練を実施している。入居者も一緒に参加し、地震や火災を想定し机の下にもぐったり、階段の昇降を練習している。訓練の際には入居者毎に時間を計り、反省点などを話し合っている。また、年2回法人の施設合同で避難訓練を実施している。来年は地域の防災訓練に参加することを予定している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の栄養摂取、水分摂取量はおおまかに把握しており、個別に細かくチェックしている人もいる。食事は入居者の状態に応じて提供しており、ペースト状にしたり、細かくするなど適宜対応している。献立は、1週間分ずつ入居者と職員が一緒に考え、法人の栄養士に相談や確認をしている。「おまかせの日」があり、その日は冷蔵庫にある食材を見ながら皆で考え献立を立てている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレは2人に1つの割合で設置されている。浴室は広く車椅子の人を介助しながらゆっくり入浴できるスペースが確保されている。廊下も広く通りやすくなっており、モップがけなどの掃除を入居者も共に行っている。要所に手すりが設置されており、生活する中で必要があれば手すりを追加している。掃除が行き届いており、快適に過ごせる環境づくりに努めている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド、タンス、洗面台が備え付けになっており、それ以外は自宅で使い慣れた生活用品や小物、椅子、本、作品、家族の写真などを持ち込み、本人のプライベート空間として自由に装飾している。窓枠が大きくとられ、部屋は明るく外の緑豊かな自然の眺めがよく見え、入居者は気に入っている。		

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。